

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	苫小牧工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
	創造工学科(機械系)	夜間・通信	0	4	14	18	7	
	創造工学科(都市・環境系)	夜間・通信			34	38	7	
	創造工学科(応用化学・生物系)	夜間・通信			5	9	7	
	創造工学科(電気電子系)	夜間・通信			12	16	7	
	創造工学科(情報科学・工学系)	夜間・通信			8	12	7	
	創造工学専攻(機械系)	夜間・通信		10	10	20	7	
	創造工学専攻(都市・環境系)	夜間・通信			10	20	7	
	創造工学専攻(応用化学・生物系)	夜間・通信			6	16	7	
	創造工学専攻(情報エレクトロニクス系)	夜間・通信			8	18	7	
(備考) 令和3年4月に電子・生産システム工学専攻および環境システム工学専攻から創造工学専攻に改組した。								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicDepartments?school_id=02&lang=ja ※各系・各専攻の「開講科目一覧」ページに掲載

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名

(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	苫小牧工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 理事（役員）名簿の公表方法

[https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/upload-file%20folder/02_%E4%BA%BA%E4%BA%8B/NewFolder/yakuinmeibo\(2020401\).pdf](https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/upload-file%20folder/02_%E4%BA%BA%E4%BA%8B/NewFolder/yakuinmeibo(2020401).pdf)

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	熊本大学長	2016年4月 1日～2024 年3月31日	理事長
常勤	豊橋技術科学大学理事・ 副学長	2020年4月 1日～2022 年3月31日	研究・産学連携 情報システム
非常勤	東京大学教授	2014年4月 1日～2022 年3月31日	男女共同参画推進
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	苫小牧工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 教務委員会の指導の下、科目担当教員が授業計画(シラバス)を11月～12月頃作成し、1月頃ウェブ上で公開している。公開内容には授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準等の事項が含まれ、公開された内容に従って授業が進められている。	
授業計画書の公表方法	https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicDepartments?school_id=02&lang=ja
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	

<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>科目ごとの成績評価の基準は1.の通り事前に公開されており、本校「学業成績の評価並びに課程の修了及び卒業の認定に関する規程」及び本校「専攻科の授業科目の履修に関する規程」に則って履修の認定並びに単位の認定が行われている。</p>	
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本校では学生の成績評価の客観的な指標として以下の通りの算出方法でクラス内（1年生のみ学年全体）での席次を算出している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全ての履修科目の評価点の平均点により、クラスの成績順位付けを行っている。なお、必修科目については、全て履修科目数に含め、そのうち欠席が多く「未履修」となった科目は評価点を「0点」とみなして計算している。(令和2年度以降に入学した学生についてはGPAにより順位付けしている。) <p>算出方法については学期末に各家庭へ向けて発送する「学業成績通知書」の通知文書に記載およびホームページで公表している。</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>https://www.tomakomai-ct.ac.jp/dep/syllabus</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

本校では学生が身につけるべき能力として、学習目標やディプロマ・ポリシーを設定し、ホームページ等で広く公表している。

卒業及び修了は、ディプロマ・ポリシー、学則並びに本校「学業成績の評価並びに課程の修了及び卒業の認定に関する規程」及び本校「専攻科の授業科目の履修に関する規程」の卒業・修了要件を踏まえ、卒業・修了判定会議を開催の上、校長が卒業・修了を認定している。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

ディプロマ・ポリシー

<https://www.tomakomai-ct.ac.jp/outline/purpose/purpose1>

第5章 教務・学生〇苫小牧工業高等専門学校学業成績の評価並びに課程の修了及び卒業の認定に関する規程

<https://www.tomakomai-ct.ac.jp/outline/kitei>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	苫小牧工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/documents/zaimusyohyoR1.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/documents/zaimusyohyoR1.pdf
財産目録	
事業報告書	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/R1jigyohokokusho.pdf
監事による監査報告(書)	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/kanjiikenR1.pdf

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:独立行政法人国立高等専門学校機構の年度計画 対象年度:令和2年度)
公表方法: https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/upload-file%20folder/01_%E7%B7%8F%E5%8B%99/r3-keikaku.pdf
中長期計画(名称:独立行政法人国立高等専門学校機構の中期計画 対象年度:平成31年(2019年)4月1日から令和6年(2024年)3月31日まで)
公表方法: https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/chuukikeikaku-4th.pdf

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法:<https://www.tomakomai-ct.ac.jp/outline/assessment>

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:<https://www.tomakomai-ct.ac.jp/outline/steering/h26>

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 創造工学科
教育研究上の目的（公表方法： https://www.tomakomai-ct.ac.jp/outline/purpose/purpose1 、 https://www.tomakomai-ct.ac.jp/outline/purpose/honpurpose ）
（概要） 本校は、教育基本法の本質にのっとり、及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。（学則第 1 条） 創造工学科は、工学分野共通の基礎を教育した上で、豊かで安全な未来を創造するための核となる専門分野とその周辺の知識と技術に関する実践的な教育を行い、豊かな人間性と自主性及び広い視野をもった人材を育成する。
卒業の認定に関する方針 （公表方法： https://www.tomakomai-ct.ac.jp/outline/purpose/hondp ）
（概要） 創造工学科では、専門の基礎学力やコミュニケーション力を身につけるとともに、幅広い視点を持って自身のコアとなる専門分野を学ぶことのできる教育を進めている。こうした教育を通じて、自ら学び考え、課題を発見し解決することのできる創造性・探究心豊かな人材を育成します。また 4 学年では各専門系を専門コースとフロンティアコースに別け、専門コースでは工学分野の幅広い知識を持った人材、フロンティアコースでは、工学的知識と経営的知識を持った人材を育成している。こうした人材を育成するため、以下のような能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定する。 修得する能力 下記に示す各系の専門工学分野をコアとした、幅広い知識と技術を活用する能力 課題の本質を理解し、論理的に分析する能力 他者と協働し課題に取り組む事のできる能力 正しい倫理観のもとで責任を持って課題に取り組む能力
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.tomakomai-ct.ac.jp/outline/purpose/honcp ）
（概要） 創造工学科 創造工学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げた人材を養成するため、次の基本方針に基づいて教育課程を編成し、実施している。 （1）基礎教育 進路選択を適切に行うため、入学試験時に専門を選択しない「大括り入試」を実施します。1 学年は混合学級とし、多様な仲間とともに工学の基礎を学ぶとともに、コミュニケーション能力の向上をします。 （2）専門教育 2 学年以降に行われる専門教育は、1 学年で育んだ能力を基礎にして、各専門系のディプロマ・ポリシーを達成するために配置されています。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：学生募集要項、 https://www.tomakomai-ct.ac.jp/outline/purpose/honap ）

<p>(概要)</p> <p>苫小牧高専は、豊かな人間性および自主自律の精神を育成し、技術者に必要な知・徳・体のバランスのとれた成長を促し、社会の発展のために活躍できる人材を育てるため、幅広い分野に関する基礎学力があり、勉学意欲が高い多様な資質を持った入学者を国内外から広く受け入れます。</p>
--

<p>学部等名 創造工学専攻</p> <p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.tomakomai-ct.ac.jp/outline/purpose/purpose1 https://www.tomakomai-ct.ac.jp/outline/purpose/senpurpose)</p>

<p>(概要)</p> <p>本校は、教育基本法 の精神にのっとり、及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。(学則第1条)</p> <p>準学士課程で修得した専門知識や技術を基礎とし、経営的知識をもって社会変化に柔軟に対応して、新しい分野でも活躍できる実践的・複合的能力を養成する。</p>

<p>卒業の認定に関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.tomakomai-ct.ac.jp/outline/purpose/senpd)</p>
--

<p>(概要)</p> <p>専攻科では、工学分野における専門的な知識と経営的知識に加え、豊かな人間性と教養及び広い視野を身につけるとともに、複数の視点で物事をとらえて新しい技術を創造する基礎力、地域や国際社会で活躍するための教養とコミュニケーション能力及び相互理解の精神を身につけた人材を養成します。こうした人材を養成するため、以下のような能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して、修了を認定する。</p>
--

<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.tomakomai-ct.ac.jp/outline/purpose/sencp)</p>

<p>(概要)</p> <p>本校の教育課程の編成及び実施に関する方針は「カリキュラム・ポリシー」として本校ホームページ上で公開し、広く公表されている。</p> <p>専攻科では、ディプロマ・ポリシーにて掲げた人材を養成するため、カリキュラム設計方針に基づいて教育課程を編成し実施する。</p> <p>専門教育は、本科で学んだ知識を発展させるために配置している。また経営的知識、コミュニケーション能力、リーダーシップ及び判断力を身につけるために地域企業との課題解決型共同・協働教育を含むマネジメントに関わる教育も行う。</p> <p>一般教育は、豊かな人間性と教養及び広い視野を身につけるために配置している。国際社会で活躍できる人材の養成のために、全学年に英語に関する科目を設置している。</p> <p>これらの科目群を体系的に履修できるように配置する。</p>

<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：学生募集要項、https://www.tomakomai-ct.ac.jp/outline/purpose/senap)</p>
--

<p>(概要)</p> <p>入学者選抜の基本方針は、苫小牧高専の教育理念に示された人材を育てるため、専攻科における入学者選抜では、工学の基礎を習得していることを重視します。また、学力と勉学意欲が高い多様な資質を持った入学者を選抜するため、学力選抜、推薦選抜、社会人特別選抜及び外国人留学生特別選抜を実施します。</p>
--

学部等名 電子・生産システム工学専攻
教育研究上の目的（公表方法： https://www.tomakomai-ct.ac.jp/outline/purpose/purpose1 https://www.tomakomai-ct.ac.jp/outline/purpose/senpurpose ）
<p>（概要）</p> <p>本校は、教育基本法の本質にのっとり、及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。（学則第1条）</p> <p>準学士課程で修得した機械・電気電子・情報工学の知識や技術を基礎とし、境界領域を認識できる能力、「ものづくり」の基礎となる幅広い分野の実践的・複合的能力を育成する。</p>
卒業の認定に関する方針 （公表方法： https://www.tomakomai-ct.ac.jp/outline/purpose/sendp ）
<p>（概要）</p> <p>豊かな人間性と教養および広い視野を身につけるとともに、複数の視点で物事をとらえて新しい技術を創造する基礎力、グローバルに活躍するための教養とコミュニケーション能力および相互理解の精神を身につけた人材を育成する。以下のような能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して、修了を認定する。</p>
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.tomakomai-ct.ac.jp/outline/purpose/sencp ）
<p>（概要）</p> <p>本校の教育課程の編成及び実施に関する方針は「カリキュラム・ポリシー」として本校ホームページ上で公開し、広く公表されている。</p> <p>ディプロマ・ポリシーにて掲げた人材を養成するため、カリキュラム設計方針に基づいて教育課程を編成し、実施する。専攻科は、機械工学科、電気電子工学科、情報工学科を基盤としている電子・生産システム工学専攻と物質工学科、環境都市工学科を基盤としている環境システム工学専攻からなる。両専攻の目的に照らして必要な科目群を選定し、これらの科目群を体系的に履修できるように配置する。</p>
入学者の受入れに関する方針（公表方法：改組に伴い学生募集停止）
<p>（概要）</p> <p>改組に伴い学生募集停止</p>

学部等名 環境システム工学専攻
教育研究上の目的（公表方法： https://www.tomakomai-ct.ac.jp/outline/purpose/purpose1 https://www.tomakomai-ct.ac.jp/outline/purpose/senpurpose ）
<p>（概要）</p> <p>本校は、教育基本法の本質にのっとり、及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。（学則第1条）</p> <p>準学士課程で修得した物質工学・環境都市工学の知識や技術を基礎とし、境界領域を認識できる能力、素材・材料、生物機能、社会基盤に関する分野の実践的・複合的能力を育成する。</p>

<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.tomakomai-ct.ac.jp/outline/purpose/sendp)</p>
<p>(概要) 豊かな人間性と教養および広い視野を身につけるとともに、複数の視点で物事をとらえて新しい技術を創造する基礎力、グローバルに活躍するための教養とコミュニケーション能力および相互理解の精神を身につけた人材を育成する。以下のような能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して、修了を認定する。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.tomakomai-ct.ac.jp/outline/purpose/sencp)</p>
<p>(概要) 本校の教育課程の編成及び実施に関する方針は「カリキュラム・ポリシー」として本校ホームページ上で公開し、広く公表されている。</p> <p>ディプロマ・ポリシーにて掲げた人材を養成するため、カリキュラム設計方針に基づいて教育課程を編成し、実施する。専攻科は、機械工学科、電気電子工学科、情報工学科を基盤としている電子・生産システム工学専攻と物質工学科、環境都市工学科を基盤としている環境システム工学専攻からなる。両専攻の目的に照らして必要な科目群を選定し、これらの科目群を体系的に履修できるように配置する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：改組に伴い学生募集停止）</p>
<p>(概要) 改組に伴い学生募集停止</p>

②教育研究上の基本組織に関すること

<p>公表方法：https://www.tomakomai-ct.ac.jp/outline/edu-info#sub2</p>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	6人	—					6人
創造工学科	—	32人	28人	1人	8人	0人	69人
	—	人	人	人	人	人	人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
人		16人					16人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法：researchmap (https://researchmap.jp/)、国立高専研究情報ポータル (https://research.kosen-k.go.jp/)、e-Rad (https://www.e-rad.go.jp/)					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
創造工学科	200人	212人	106%	1000人	995人	99.5%	若干人	9人
合計	200人	212人	106%	1000人	995人	99.5%	若干人	9人
創造工学専攻	20人	31人	155%	20人	31人	155.0%	人	人
電子・生産システム工学専攻	人	人	%	12人	10人	83.3%	人	人
環境システム工学専攻	人	人	%	8人	6人	75.0%	人	人
合計	20人	31人	155%	40人	47人	117.5%	人	人
(備考) 令和3年4月に電子・生産システム工学専攻および環境システム工学専攻から創造工学専攻に改組								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
創造工学科	186人 (100%)	75人 (40.3%)	107人 (40.3%)	4人 (2.2%)
合計	186人 (100%)	75人 (40.3%)	107人 (40.3%)	4人 (2.2%)
電子・生産システム工学専攻	12人 (100%)	6人 (50.0%)	6人 (50.0%)	0人 (0%)
環境システム工学専攻	13人 (100%)	6人 (46.2%)	7人 (53.8%)	0人 (0%)

合計	25人 (100%)	12人 (48.0%)	13人 (52.0%)	0人 (0%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考) 令和3年4月に電子・生産システム工学専攻および環境システム工学専攻から創造工学専攻へと改組のため、創造工学専攻の実績なし。				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) 教務委員会の指導の下、科目担当教員が授業計画(シラバス)を作成し、ウェブ上で公開している。公開内容には授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準等の事項が含まれ、公開された内容に従って授業が進められている。(再掲)

⑥ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) 本校の卒業要件は学則並びに本校「学業成績の評価並びに課程の修了及び卒業の認定に関する規程」及び本校「専攻科の授業科目の履修に関する規程」において規定され、広く公表されている。(再掲)				
学部名	学科名	卒業に必要な 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
	創造工学科	167 単位	有・無	単位
	創造工学専攻	62 単位	有・無	単位
	電子・生産システム工学専攻	62 単位	有・無	単位
	環境システム工学専攻	62 単位	有・無	単位
GPAの活用状況 (任意記載事項)		公表方法:		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法:		

⑦ 校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法: アクセス https://www.tomakomai-ct.ac.jp/outline/access 施設紹介 https://www.tomakomai-ct.ac.jp/facility
--

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考(任意記載事項)
	創造工学科	234,600円	84,600円	約78,420円～ 約101,620円	(内訳) スポーツ振興センター共済掛金 1,550円 教科書代 約19,000円 教材・体育服等 18,100円 後援会入会金(※) 10,000円 後援会前期会費 10,000円 学生会費 10,500円 1年カエンテーション諸経費 10,430円 英語統一テスト代 630円 スタディサプリ 6,120円 就活支援ブック 2,090円 寄宿料(※) 7,700円 入寮費(※) 2,000円 寮学生会費(※) 3,500円 (※)は該当学生のみ
	創造工学専攻	234,600円	84,600円	約28,780円～ 約38,780円	(内訳) スポーツ振興センター共済掛金 1,550円 教科書代 約13,000円 後援会入会金(※) 10,000円 後援会前期会費 10,000円 英語検定料 4,230円 (※)は該当学生のみ

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 就学支援金、授業料減免、授業料免除、各種奨学金等の申請や手続きについて、随時学生、保護者に対して周知を行っている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) 本校キャリア教育センターでは、求人情報・大学編入学募集に関する情報を取りまとめて学生に提供しているほか、進学・就職に係る各種ガイダンスや説明会を実施し、学生の進路選択を支援している。 また、低学年次からOBによる講演等を通じて、自身のキャリアデザインを考える授業を開設している。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

保健室では、看護師 2 名（常勤 1，非常勤 1）が、学生の病気やケガに適宜対応できる体制となっている。

学生相談室では、8 名の相談員のうち毎日 3 名が放課後に常駐して相談できる体制をとっているほか、外部カウンセラー 3 名、言語聴覚士 1 名が週 1 日来校し、学生へのカウンセリング等を行っている。また、年 2 回の「学生生活アンケート」に基づいた面談を実施している。

さらに、発達障害等により学習支援が必要な学生には、学生相談室員、学級担任等がサポートチームを組んで対応しており、対象学生への具体的な配慮情報は発達障害等就学支援委員会を通じて学内で共有できる体制となっている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<https://www.tomakomai-ct.ac.jp/outline/edu-info>

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	G101110100544
学校名	苫小牧工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		72人	69人	73人
内 訳	第Ⅰ区分	39人	40人	
	第Ⅱ区分	14人	19人	
	第Ⅲ区分	19人	10人	
家計急変による支援対象者（年間）				1人
合計（年間）				74人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定		0人	3人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下)		0人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況		0人	0人
「警告」の区分に連続して該当		0人	0人
計		0人	3人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑つて認定の効力を失つた者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
年間	前半期	後半期	
		0人	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	2人
3月以上の停学	0人
年間計	2人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)		0人	0人
G P A等が下位4分の1		1人	9人
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況		1人	0人
計		1人	9人
(備考) 前半期 「G P A等が下位4分の1」及び「出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況」同一学生			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。